

お知らせ

- 中西部 IP 穀物会議&トレードショーが 9/1-3 までサウスダコタ州スーフォールズで開催されます
- EU 発信の SOY & Health Summer 号を ASA-IM ホームページにアップデートしました
- ASA-IMの本部-USSECが食用大豆生産のプロモーションの一環とし、“プレミアム・ドット・コム”というウェブサイトを立て上げ(ロゴイメージ: 左参照)、州ごと、買い手ごとに、どの程度のプレミアムが付与されるかという情報提供を行っています ⇒ <http://www.soybeanpremiums.org/>
- USB(全米大豆基金財団)発行の 2009 SOYFOODS GUIDE を日本語訳しました。(詳細は協会まで)
- 前号の訂正箇所のお知らせ:
(誤)「ネブラスカ州 Non-GMO 作付面積増加率 -1」⇒ (正)「ネブラスカ州 Non-GMO 作付面積増加率 +1」



2009 年度 Non-GMO & GMO 大豆作付関連状況 前年比較

	Non-GMO	GMO
作付面積	↑ 697 万エーカー	↑ 7053 万エーカー
プレミアム etc	↑ 約 \$ 1-2.75 /ブッシェル	↓ シカゴ価格
種子代	↓ 約 \$ 17 /バグ	↑ 約 \$ 35/バグ から \$ 50/バグに値上り
除草剤コスト	↓ _____	↑ 約 \$ 15/ガロン から \$ 35/ガロンに値上り

(注意: 矢印は、昨年比との増加を表します。作付以外のデータは、米国関連業界誌、生産者との個別インタビューからの情報であり、個々のケースで差異があります)

2009 年米国 Non-GMO 大豆
主要産地作付面積

生産州	作付面積 (単位:エーカー)
イリノイ	910,000
オハイオ	782,000
ミズーリ	594,000
アイオワ	588,000
ミネソタ	576,000
ミシガン	340,000
インディアナ	330,000
ウィスコンシン	246,000
ノースダコタ	243,000
カンザス	216,000
アーカンソー	204,000
ネブラスカ	180,000
サウスダコタ	87,000

*1エーカー当たりの生産量は約1トンを目安として計算できます。(例: イリノイ 91 万トン)

米国产食品大豆動向

2009 年、米国大豆生産者は、2008 年より約 100 万エーカー多く Non-GMO 大豆を作付しました。GM 大豆作付開始して以来、初の前年比較の増加で、2008 年の 596 万エーカーに対し、2009 年は約 697 万エーカーの作付でした。

米国 Non-GMO 大豆の作付比率は 9%で、全作面積は史上最高の 7750 万エーカー、2008 年の Non-GMO の作付比率は 8%で、全作付面積は 7550 万エーカーでした。

米国 Non-GMO 大豆の作付が増加した理由はいくつかありますが、大きな要因としては、上記表にまとめたように、Non-GMO 大豆の高プレミアム+低インプットコストです。中には、Non-GMO 大豆の種子関連コストが、GMO の同関連コストの 1/2 だったと報告している大豆生産者もいます。

米国 Non-GMO 大豆生産は、他供給地と比較しても、天候によるリスクを分散できるため、より確実な安定的供給が可能です。例えば、左記表がしめすように、米国大豆生産州の1-2州で日本の Non-GMO 大豆の全体輸入量である 90 万トンをまかなう事も(理論上は)不可能ではない事がわかります。

米国の大豆生産量は世界一、米国大豆の輸出額は穀物一、米国食品大豆の最大輸出先は日本がダントツ一位ですから、米国大豆は今までと変わりなく、日本の食品業界を重要なビジネスパートナーと位置付けています。

米国 Non-GMO 大豆生産者は需要があり、プレミアムが払われる限り、生産を続けて参りますので、今後とも米国产食品大豆をよろしくお願い致します。

米国 Non-GMO 大豆 をお探しの輸入業者の方は ↓ サイトより

<http://www.soybeanpremiums.org/find/>